審査継続 僅差で否決

市議会委の再稼働同意 先送り協議決裂

川内原発を考える

20日、九州電力川内原発の再稼働に同意する陳情を賛成多数で採択した薩摩川内市議会の特別委員会。陳情の扱いをめぐり、一時は再稼働容認派の委員からも慎重な対応を求める意見が出た。川内原発の新規制基準に関するいちき串木野市での住民説明会を夜に控え、近隣の市民感情に配慮するかに見えたが、最後は僅差で採決に踏み切った。

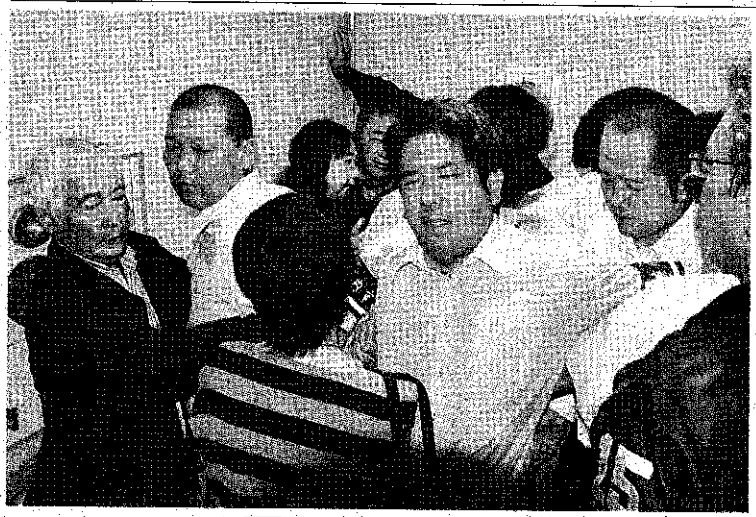
（1面参照）

特別委は委員長を除く委員9人のうち、再稼働容認派は6人。賛成陳情の採択は時間の問題だった。前回の特別委が開かれた15日時点では、多くの委員の間で20日の採決が既定路線だった。

ところが、18日になって再稼働に反対する委員が「いちき串木野の説明会が終わるのを待つべきだ」と提案。採決の先送りを複数の委員に働き掛け、再稼働賛成派からも賛同の声が上がり始めた。

ただし、いちき串木野の住民説明会の20日開催は15日時点で織り込み済み。特別委の判断は説明会の日取りに左右されないという見方も根強く、委員同士で腹の探り合いが続いた。急きょ20日午前8時に協議の場を設けたが、先送りの議論は決裂し、開会を迎えた。

継続審査の提案に何人同調するか、詰めかけた傍聴者らが固唾（かたず）を



のんで見守る中、立ち上がった委員は4人。過半数に1人足りず、委員長の採決実施を告げる声が響いた。

公明党の中島由美子委員は継続審査に同調せず、反対、賛成両陳情の採決はともに棄権。委員会終了後の取材に「県本部、国との調整が間に合わなかった。採決は今日か明日かという話だったので、どちらにしても結果は一緒だと思った」と答えた。

再稼働容認派ながら反対陳情の継続審査を求めた上野一誠委員は「原子力規制委員会の方向性が出た時点で採決の時期は迫っていた。しかし、多くの市民が

特別委員会の主な経過

2012年10月28日　薩摩川内市議会議員選挙
11・15　市議会が川内原子力発電所対策調査特別委員会を設置
13・5・29　市民団体が再稼働に反対する陳情を市議会に提出
7・30　特別委が九州電力を参考人招致
9・26　原子力規制庁を参考人招致
14・2・18　原子力規制庁を招致
2・19、21　反対陳情の提出者を参考人招致
3・18　薩摩川内市原子力推進期成会が市議会に再稼働推進を求める陳情を提出
4・21　期成会を参考人招致
5・16　九電を参考人招致
7・23　川内原発の安全対策工事を視察
7・29　川内原発の重大事故時、薩摩川内市民の避難先となる鹿児島市と南さつま市の避難所を視察
8・13　薩摩川内市の山之口自治会が市議会に再稼働反対陳情を提出
9・25　山之口自治会長を参考人招致
10・9　新規制基準適合性審査結果に関する住民説明会が薩摩川内市で初開催。説明会に先立ち、原子力規制庁職員を参考人招致
10・20　期成会提出の賛成陳情を採択。反対陳情は不採択

反対派奴

20日の薩摩川内市議会特別委員会は、傍聴に詰めかけた再稼働反対団体のメンバーや住民らが会場になだれ込もうとして市職員と押し問答が続いた。委員会室のドアを何度もたたき、「再稼働反対」と怒号を響かせた。

傍聴受け付けには開始30分前までに56人が訪れた。席は30席。抽

委員会室前でもみ合いになる市民団体のメンバーと市職員＝20日午前11時50分ごろ、薩摩川内市議会

選を

対派

限す

発。

する

鹿

憲一

電力

をめ

の可

11月

12月

臨時

出す

認識